

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	施工2（Construction Work 2）		
ナンバリングコード	L30902	大分類 / 難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 応用レベル 建築生産
単位数	2	配当学年 / 開講期	3 年 / 後期
必修・選択区分	コース選択必修:建築工学コース 選択:建築設計コース、住居・インテリアコース、環境地域(まち)コース、環境地域(社会)コース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	L090251	クラス名	-
担当教員名	中西 章敦		
履修上の注意、 履修条件	構造系科目(構造力学、構造設計、材料力学、材料工学ほか)を履修していることが望ましい。 教科書をベースにスライドを用いて講義を行ないます。教科書は前期の施工1で使用したものを持参してください。また、板書する場合がありますので、しっかりと自分のノートを作成してください。施工1と同様に、現場見学や外部講師による特別授業を行うので、これらには欠席しないで受講してください。		
教科書	改訂版 図説 やさしい建築施工(及び配布資料)		
参考文献及び指定図書	建築施工を学ぶ一級建築士・施工管理技士試験のための重要事項 わかりやすい土木施工管理の実務		
関連科目	構造系科目(構造力学、構造設計、材料力学、材料工学、建築材料実験など)		

○基本情報		
授業の目的	建設原価管理に関する内容の授業で、現場における基礎を学びます。躯体工事として施工1の内容に続いて、仕上・設備工事及び施工機械と維持管理について学びます。これまで学んだことの理解を深めるため、大分大学に設置されている実物模型(モックアップ)の見学に行きます。この施設は、鉄筋コンクリート造・鉄骨造・木造の3棟が実物大で建築されており、詳細部まで確認することができます。外装から内装までの一連の流れを確認し施工を学びます。実際の現場取材を行う課題は、興味のある建設現場を探し、その内容を現場の方から取材してレポートにまとめるものです。学んだ専門用語を活用し現場での会話が理解できるかの確認を目的とします。この目的は、ディプロマポリシーにある「生涯にわたって自発的に学習する能力」を身につけるとともに、「幅広い技術全般における基礎知識」を学ぶことに合致します。	
授業の概要	躯体工事としてコンクリートブロック工事・木工事に続いて、仕上・設備工事及び施工機械と維持管理についての内容で進めていきます。目的は、自分の専門分野の仕事の実際に触れること、「見学・インタビュー」を自らが申し込んで達成するコミュニケーション力の実践です。全員揃って、現場見学に行くことが時間的に厳しいので、身近にある現場を自らが見て学びます。講義期間の中盤には、建設コストマネージャー資格の試験を行い、80点以上を合格とします。合格者は、申請により建設コストマネージャーとなり履歴書にその成果を記載できます。本講義では、現在の建設業における課題や問題点を自分で探し、どのようにすれば解決できるかを考える力を習得してもらいます。「施工1・2」は施工管理を行うための講義だけでなく、設計事務所への就職を希望する学生にこそ建築士試験の「施工」分野を学び経験する意味で重要となる科目です。	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3)アクティブ・ラーニング	「PBL(課題解決型学習)」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	中西章敦(大分県庁土木建築部において大分県の道路・河川・地域づくりに関する行政に従事) 「近年の建設現場の施工技術や今後の展開に関する講義」 一般社団法人 コスト管理士協会 専任講師による建設コストマネージャー資格取得のための授業を実施し、前期3回後期3回の受講後、資格試験を受験し合格すれば資格を得ることができる。合格後、希望者は所定の申請を行い建設コストマネージャーとなり、履歴書に同資格を表示できます。	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	① 建設業界の原価管理の現状と必要性を理解し、報告できる		20点	10点
【知識・理解】	② グループ化の考え方を理解し、実行予算・工程表との関係を報告できる	50点		
【技能・表現・コミュニケーション】	③ 木工事の工程を理解し、一連の付属工事を説明できる。		10点	
【思考・判断・創造】	④ 施工管理技士の問題を理解し、解答できる。建設コストマネージャーの役割を理解する。		10点	
○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)				
15回の講義の中で5回のレポート(各6点)を課します。 第4回の原価管理の試験に20点を配点します。合格者(16点以上)は建設コストマネージャーの資格申請が可能です。 期末試験(50点分)については教科書のみ持ち込み可とします。試験は講義内容を主としますのでメモを教科書に書き込んでください。 講義の中で、適宜質問を行います。優れた解答をした学生には、講義点として加点することがあります。 課題やレポートのフィードバックについては、提出後の講義内で説明を行います。				

○その他

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科 目 名	施工2（Construction Work 2）	授業コード	L090251
	担当教員	中西 章敦		
学修内容				
1. 建設原価管理法④建設業界における原価管理が定着しにくい要因、解決する方法 建設原価管理の4ステップ(原価集計→原価結果管理→原価予定管理→利益管理)を学び、建設業界における原価管理の定着し難い要因を考察します。その後解決方法として、作業のグループ化(特許手法)の3つの考え方をワークを通して考察します。				
	予習	前期の建設原価管理法①～③の資料を見直して、実際の積算ができるような準備を行う。		約2時間
	復習	建設コストマネージャー資格試験練習問題に取り組む		約2時間
2. 建設原価管理法⑤作業のグループ化と実行予算の関係 作業のグループ化を実際の施工単価表から手計算する方法、考え方を掘り下げます。工種ごと実行予算と作業グループの実行予算の関係性を考察します。				
	予習	前期の建設原価管理法①～③の資料を見直して、実際の積算ができるような準備を行う。		約2時間
	復習	建設コストマネージャー資格試験練習問題に取り組む		約2時間
3. 建設原価管理法⑥日々管理を現場に導入する必要性と効果を考察する 日々管理を現場に導入する時の問題点、必要性、効果を考察します。ここでは主として、必要性・効果・対策を繰り返し、掘り下げて考えることで原価管理士としてのマインドを養成します。				
	予習	前期の建設原価管理法①～③の資料を見直して、実際の積算ができるような準備を行う。		約2時間
	復習	建設コストマネージャー資格試験練習問題に取り組む		約2時間
4. 建設コストマネージャー資格筆記試験 前期・後期での建設コストマネージャーに関する筆記試験を実施する。試験結果は次週に発表する。 試験結果は中間試験として成績に反映するとともに、希望者は申請することで建設コストマネージャーの資格を得ることができる。				
	予習	建設原価管理法①～⑥までの内容について再確認して試験対策を行う。		約2時間
	復習	試験結果を受け取り受講の成果を確認する。		約2時間
5. コンクリートブロック工事 補強コンクリートブロック造は、わが国では組構造として唯一の建築構造として認められていて、三階建て以下のものを立てることができる。この工事の材料、補強コンクリートブロック造、コンクリートブロック帳壁について学びます。				
	予習	教科書 13コンクリートブロック工事の章を熟読しておくこと。		約2時間
	復習	関連範囲における2級建築施工管理学科試験問題に取り組み提出できる状態にする。		約2時間
6. 木工事(1) 木工事とは「木材を扱う工事」のことで、従来から大工という職人が行う仕事であった。現代の木工事の現状を「木造住宅のつくり方」動画等で確認して学びます。				
	予習	教科書 14木工事の章を熟読しておくこと。		約2時間
	復習	関連範囲における2級建築施工管理学科試験問題に取り組み提出できる状態にする。		約2時間
7. 木工事(2) 木造在来軸組工法の工事ごとの工程について、教科書を参考にしながら学びます。				
	予習	教科書 14木工事の章を熟読しておくこと。		約2時間
	復習	関連範囲における2級建築施工管理学科試験問題に取り組み提出できる状態にする。		約2時間
8. 施工機械 施工現場では、省力化、工期短縮、工事の大型化などにより機械化が進んでいる。各作業に適した施工機械の特徴を理解し、工事に最適な機会を選択する方法を学ぶ。特に、測量・建設生産性向上における最新機器やその最新情報を学ぶ。				
	予習	教科書 27施工機械の章を熟読し、施工機械の形等を確認しておくこと。		約2時間
	復習	関連範囲における2級建築施工管理学科試験問題に取り組み提出できる状態にする。		約2時間

○授業計画	科 目 名	施工2（Construction Work 2）	授業コード	L090251
	担当教員	中西 章敦		
学修内容				
9. 維持管理 地球環境への負荷を低減し、持続可能な社会形成が望まれており、計画・施工・運用・解体という建物のライフサイクルにおける省エネ、省資源、リサイクル法について学ぶ				
	予習	教科書 28維持管理の章を熟読すること。		約2時間
	復習	関連範囲における2級建築施工管理学科試験問題に取り組み提出できる状態にする。		約2時間
10. 防水工事・屋根工事 防水工事と屋根工事における基本的事項を施工の留意点を中心に学びます。				
	予習	教科書 15防水工事 16屋根工事の章を熟読する。		約2時間
	復習	関連範囲における2級建築施工管理学科試験問題に取り組み提出できる状態にする。		約2時間
11. 左官工事・タイル工事 左官工事は、セメントモルタル塗り・タイル工事の各工法について学びます。				
	予習	教科書 17左官工事、18タイル工事の章を熟読しておくこと。		約2時間
	復習	関連範囲における2級建築施工管理学科試験問題に取り組み提出できる状態にする。		約2時間
12. 張り石工事・塗装工事 石材は建仕上げ材料の中で高価な材料である。石材の種類、石材の取り付け工法について説明します。塗装工事は、その工程や素地との組合せ等について学びます。				
	予習	教科書 19張り石工事、20塗装工事の章を熟読しておくこと。		約2時間
	復習	関連範囲における2級建築施工管理学科試験問題に取り組み提出できる状態にする。		約2時間
13. 建具工事・ガラス工事・内装・断熱工事 建具・ガラス工事の種類や留意点について説明します。防水・外部建具工事が終了して外部からの雨水侵入がなくなると内装工事が始まります。床工事、壁・天井工事、断熱工事、ユニット工事について説明します。				
	予習	教科書 21建具工事、22ガラス工事、23内装・断熱工事の章を熟読しておくこと。		約2時間
	復習	関連範囲における2級建築施工管理学科試験問題に取り組み提出できる状態にする。		約2時間
14. 外部講師特別講義(建設業界で活躍する技術者から)あるいは現場見学 大分県内産学官で活躍する現場技術者からの講演で、実際の現状を知り、将来の進路決定の為の指針とする。建設施工現場を実際に見学し、施工手順や工法及び現場での行動に関して直接説明を聞く。建設技術者としての心構えや在学中の準備等についてアドバイスをもらう。 ※外部講師および現場との日程調整により実施回が変更となることがあります。				
	予習	対象テーマあるいは現場の事前資料を確認し、質問ができる準備を行うこと。		約2時間
	復習	受講あるいは見学に対する感想文レポートを完成させ提出する準備を行う。		約2時間
15. 施工について 施工1、施工 2で学んだ内容をもとに、施主、設計、施工、監理、管理の面から施工について復習する。各人の進路において施工は必ず必要であり、施工できない図面はただの絵であり、施工計画を意識した設計を行なうことが出来るように意識づける。 講義内では事前に質問を受け付け、その内容にも回答を示す。				
	予習	これまでの施工1、施工2の内容を熟読すること。事前に建設業に関する質問を提出すること。		約2時間
	復習	自身の進路における施工の役割を再認識する。		約2時間
16. 確認試験 第4回から第15回までの講義内容に関する確認試験を実施します。				
	予習	4回～15回の講義内容について、持込み不可の資格関連問題と持込可の両方を実施します。		
	復習	結果を確認し、不正解箇所を確認し訂正する。		